

平成27年

1月	2月	3月	4月	5月	6月
7月	8月	9月	10月	11月	12月

そのほかの掲載分は [こちら](#) から

4月

4月24日（金）

- 砂川高校スキ一部表敬訪問

▶ [詳細はこちら](#)

- 平成27年度砂川市食生活改善協議会

▶ [詳細はこちら](#)

4月23日（木）

- ソメスサドル（株）染谷会長来庁

▶ [詳細はこちら](#)

4月21日（火）

- 北伸建設工業（株）寄付採納

▶ [詳細はこちら](#)

4月17日（金）

- 赤平らんフェスタ

▶ [詳細はこちら](#)

4月15日（水）

- 平成27年度交通安全推進委員会

▶ [詳細はこちら](#)

4月10日（金）

- 町内会連合会総会・懇親会あいさつ

－砂川方式の地域包括ケアシステムを目指して－

▶ [詳細はこちら](#)

4月8日（水）～9日（木）

- 東京出張

▶ [詳細はこちら](#)

4月2日（木）

- 北海道優良米生産出荷共励会 最優秀賞受賞祝賀会

▶ [詳細はこちら](#)

- 人権擁護委員 渡辺志織さん 委嘱状伝達式

▶ [詳細はこちら](#)

4月1日（水）

- 砂川市介護認定審査会委員委嘱書交付

▶ [詳細はこちら](#)

- 雑感 － 出会いと別れの日々 －

▶ [詳細はこちら](#)

今年砂川高校スキー部に入部した石塚凜さんと伴竜馬君が松原校長、湯谷先生と一緒に市長室にあいさつに来ました。

石塚凜さんは、茨城県つくば市出身で小学校6年生のときから両親と一緒に長野県菅平スキー場で練習をしており、菅平スキー場のコーチ（湯谷先生の友人）に勧められて砂川高校に来ました。

ご両親は本州出身ですが北大出身ということもあり、小さいころからスキーをしていたそうです。

全国中学3位の実力の持ち主で、成績も最優秀でしっかりしていますが、まだまだ15歳。砂川に来た初日は寂しくて泣いたそうです。

凜さんは湯谷先生のことを「自分の夢を達成するための的確なアドバイスをしてくれる」と絶大な信頼を寄せています。

この3年間でとても楽しみです。

伴竜馬君は滝上中学の出身で、今年砂川高校を卒業し大学に進学した伴円さんの弟です。

竜馬君は、中学時代はアルペンスキーでは無名ですが、今シーズンの全道大会で「タイトルは高校に入ってからでも取れる」と言ってくれたことが砂川に来るきっかけと話してくれました。

高校での競技では先生と生徒の信頼関係が1番大事なことなのでしょう。





話のなかでアルペン競技は環境が大事で、かもい岳スキー場はTバーリフトもあり道内でも良い施設とのことでした。

4月24日 平成27年度砂川市食生活改善協議会

ことしも総会そして食事会に呼ばれました。
平成3年に協議会が立ち上げられ、平成4年から事業が行われています。



当時、私は「ふれあいセンター」の初代管理係長として協議会の立ち上げにかか

りました。24年前ですからその当時の人はごくわずかとなりましたが、新しい人が後を継いで頑張っています。新しい役員には6期生の方もいます。

超高齢社会を迎え介護事業の充実とともに介護保険料も上がり続けていますが、砂川市の介護保険料は4,600円と空知管内では下から3番目の安さとなっています。黙っていても3年ごとの見直しのたびに保険料が上がりますので、砂川市は特定健診（40歳以上）の受診率向上と食生活改善協議会の皆様のご協力により生活習慣病を予防する食生活改善運動に力を入れてまいります。

さて、ことしのバランス食の試食会は、写真のとおりで「なすの肉巻き（上原ポーク）」「舞茸のつくね」「ひじきとポテトのかき揚げ」「レタス巻きサラダ」「たまねぎの酢みそおかかあえ」「杏仁豆腐」。

栄養士から杏仁豆腐が2番目にカロリーが高く、せっかく食事でカロリーや塩分を控えても甘いものなどを間食するとすぐ生活習慣病につながるとのことでした。





ことしの評価は昨年に引き続き“星3つ”です

なぜか取材中のプレス伊藤記者も試食し、感想を求められていました。体重をお聞きしたところ生活習慣病予備軍のようです。

『よろく』

料理風景の写真を撮るため早めに行きましたが、時間がありましたので2階のサークル室を見学。ちょうどカラオケサークルの皆さんが楽しんでいると「市長も1曲どうぞ」とのこと。ご辞退申し上げましたが、人数も少なく、「ぜひお願いします」と言われると断れない性格。

1曲披露しましたが、なぜか途中でエコーのスイッチが？
まだまだ「ゆう迷人カラオケ大会」出場への道は遠いようです。

4月23日 ソメスサドル（株）染谷会長来庁

ソメスサドルの染谷会長が東京日本橋にある太田理加設計室の太田理加さんと市長室に来られました。



染谷会長（中央）、太田さん（左）とともに記念撮影

ここでは詳しく書くことができませんが、砂川ISAスマートインターチェンジ開通に向けての夢を聞かせていただきました。

スマートインターチェンジ開通に向けて他にも元気な企業が動き出します。

来てもらえる街の魅力をどう高めていくかが重要です。

スイートロード、基幹病院、頑張る企業等、地方創生を目指して砂川丸が出航します。

4月21日 北伸建設工業（株）寄付採納

北伸建設工業（株）の増田社長と岡谷内代表取締役専務・増田拓也専務が来庁し、会社創立40周年の節目の年を迎えたことから、まちづくり事業基金にと400万円の寄付をしていただきました。ありがとうございます。

先週、上京の折に千歳空港で偶然お会いし寄付の話は伺っていました。



左から増田拓也専務、岡谷内代表取締役専務、増田社長

専務の拓也さんは2年前に「リジュームすながわ千人踊り」を実施し、千人踊りを復活させた担当者でした。

建設業は砂川市の基幹産業でもあります。雇用の確保や砂川市の基盤整備、防災の観点からも必要な業種です。

今後とも砂川市は公共事業を確保してまいりますので、企業の発展と砂川のまちづくりにますます活躍されることを願っています。



北海道・中空知広域圏が後援する事業としてことしも参加。今期で勇退される高尾赤平市長から3期12年間の思い出話を聞かせていただきながら、砂川市から出店している片桐農園、ほんだ菓子司の写真を撮ってきました。空知総合振興局、中空知広域圏、赤平市の職員の皆様ご苦労様です。



完全装備の片桐農園の渡辺詩織さんとお母さん





オステオペルマム 通称“ブルーアイビューティー”と呼ばれているそうです





ことしのほんださんはパワーアップ





らんの花も収めてきました

砂川地域おこし協力隊の河野さんはポークチャップの宣伝をしていました。ほんださんの写真を撮るときには被写体として入っていたのですが・・・。

4月10日 平成27年度交通安全推進委員会

総会に先立ちまして、交通安全指導員の乱場吉行様に北海道交通安全推進委員会からの表彰状伝達、同じく交通安全指導員の小原良夫様には砂川市交通安全推進委員会から表彰状の授与を行いました。お二人には永年にわたり市民を交通事故から守るために、雨の日も風の日も雪の日も立哨指導をしていただいていることに心から感謝を申し上げます。



表彰状伝達を受ける乱場交通安全指導員（左）



砂川市交通安全推進委員会から表彰された小原交通安全指導員（左）

砂川市の交通事故の状況につきましては、昨年10月21日に死亡事故が起きまして、死亡事故死ゼロの日が792日でストップしました。これは砂川市では2番目の記録でした。

市長になった平成23年に「砂川市民を交通事故から守る一斉旗の波運動」を実施し、昨年は勤務時間中にもかかわらず355名の参加をいただいています。少しずつですが市民運動の高まりを感じています。

今後とも警察・行政・関係団体・市民の皆様と一体となって交通事故を無くして

いきたいと考えています。



4月10日 町内会連合会総会・懇親会あいさつ

- 砂川方式の地域包括ケアシステムを目指して -

平成25年4月より「砂川市高齢者いきいき支え合い条例」（地域の見守りを必要とする人の把握とその情報の地域町内会への開示）により、砂川市全体の見守りを必要とする対象者の把握のために砂川市職員とささえあいセンター（地域包括支援センター）職員の15名体制で各町内会全部を回る事業が終わりました。

この1年間、砂川市全体では907名の方が見守りを必要とする方としての情報提供をしてくださいました。

ご協力いただいた高齢者の皆様、各町内会長の皆様、民生児童委員の皆様、その他かかわってくださった市民の皆様に心から感謝を申し上げます。

これらのデータは電算化され市でしっかりと管理して、社会福祉協議会を通して地域に開示しています。当然そのデータは地域で管理する人以外には渡らないようにしております。



これは地域包括ケアシステム（在宅医療）を構築するための第1歩です。砂川市が目指しているのは、これらのデータを基に市民が重度な介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を地域が一体となって提供できるようにするのが「地域包括ケアシステム」です。



砂川市はできるところから事業に着手しており、まずは市立病院に北海道の自治体病院として第1号となる「地域包括ケア病棟」44床を設置しました。これは最長

60日の入院期間で回復期の治療とリハビリを担います。小熊事業管理者のこたばを借りれば第3次医療圏の救命・救急センター病院としては、急性期から在宅医療の慢性期まで対応する日本で例の無い過疎地の大病院ということになりますが、医師・看護師・理学療法士等のマンパワーが不足しています。



次に、これも北海道の自治体病院としては第1号となりますが、北海道の基金を利用して「医療情報ネットワーク」を構築しました。市立病院のカルテ情報、画像情報などを「ふれあいセンター」、「ささえあいセンター」、「訪問看護ステーション」、「居宅介護支援事業所」、「市内医院」、「介護施設」、「歯科クリニック」等と共有するシステムです。



高齢者見守りキャラクター みまもりngo

また、施設整備関係では、在宅医療を進める上で介護者の負担軽減のために、小規模多機能型居宅介護事業所の認可や最終的には特別養護老人ホーム（地域密着型：29床以下で砂川在住の方のみの入所）を考えています。）

しかし、施設介護は市民の皆様の介護保険料が上がるという反面もあります。砂川市には従前から民間の介護施設が多くありますが、特定健診（40歳以上の方）の受診率を上げるなど生活習慣病予防に力を入れてきましたので、砂川市の介護保険料は空知管内では下から3番目の4,600円となっています。

今後とも、在宅医療の推進や特定健診の受診率60%を目標にして施設を造っても介護保険料を上げないための施策を進めていきたいと思っています。



ささえあいセンター

4月8日～9日 東京出張

平成26年度の特別交付税も決定となり、平成27年度の動向も含め総務省と国土交通省北海道局水政課職員の異動、5月26・27日に予定している北海道河川環境整備促進協議会の中央陳情の打合せのため訪問してきました。



総務省 佐藤自治財政局長



国土交通省北海道局鎌田水政課長

翌朝は海洋センター改修の補助決定をいただきましたB & G財団菅原専務理事と古山常務にお礼のあいさつ。（写真）



右から菅原専務理事と古山常務

東京も寒波の影響で北海道と変わらない寒さで東京人もコート姿、背広で歩いているのは我々のみ、慣れているとは言ってもやはり寒い。

翌朝、少し天気が回復したので新橋から浜松町まで歩いてみました。桜は散り青い葉が出ていましたが、途中、増上寺で昔の絵ハガキで見た風景を撮ってきました。



「JA新砂川カエル倶楽部」（加藤勉代表 他9名で構成されており、砂川市からは西豊沼の寿松木裕さんが加入）が共励会で最優秀賞を受賞し、その祝賀会に出席してきました。



カエル倶楽部は平成18年に設立され、極力農薬や化学肥料を減らし、環境に優しく、“カエルと共存する米作り”を目指して技術の向上とブランド確立を目的に集まった匠たちの仲間だそうです。

収量・品質を維持しながら化学農薬を減らす実証や、病害虫が発生しにくい環境づくりなど長年にわたる研究をしながらの今回の受賞です。

TPPや農協改革等厳しい情勢にありますが、クリーン農業の推進や高品質のブランド米の生産等、持続可能な農業への取り組みが必要となっています。なお、砂川の寿松木さんは本年2月北海道指導農業士の認定を受けています。

祝賀会の席上、寿松木さんからクリーン農業への支援を要請されました。皆さん受賞おめでとうございます。

最優秀賞受賞

北海道優良米生産出荷共



JA新砂川カエル倶楽部 寿松木さん





伝達式で委嘱状の交付を受ける渡辺さん（右）

人権擁護委員は法務大臣による委嘱を受け、住民の皆さんからの人権に関する相談に応じたり、人権に関する啓発活動を行っています。任期は1期3年です。

渡辺志織さんは、2期目の委嘱となります。今回の担当は男女共同参画の委員となりますが、1期目は子ども人権委員を担当し、各小中学校にSOSミニレターとして子どもに手紙を書いてもらう事業を行っており、1校で1～2名の子どもからの手紙が来ていて、その悩みに応える手紙を出していました。たいへんですけどやりがいのある委員と話してくださいました。



渡辺さんには、自分の仕事をもちながらボランティア的に人権擁護の活動をしていただいていることに感謝を申し上げます。

法務省の委員ですが、人選は市町村に委ねられております。交通費しか支給されません。善意に頼るだけで人選をする難しさを感じています。

4月1日 砂川市介護認定審査会委員委嘱書交付

介護保険制度は、平成12年4月にスタートし16年目を迎えました。

砂川市の運営は認定審査委員会委員の皆様のご支援のもとで順調に推移してきており、介護保険料（月4,600円）は空知管内では低い方からから3番目の負担額となっています。

介護施設の整備を実施したり、高齢化が進むと介護保険料が増えることとなりますが、特定健診の受診率を上げることや地域の見守り、地域包括ケアシステムを構築しながら介護保険料を上げないような仕組みに取り組んでまいります。





委員の皆さんどうかよろしくお願いします

4月1日 雑感 — 出会いと別れの日々 —

毎年この2週間は官公庁や銀行等の異動の時期を迎え、転勤のあいさつなどで慌ただしくなります。

砂川市職員も退職者とそれに代わって採用された職員の発令式が行われ、38年から42年間務めた職員は万感の思いで市役所を去っていきます。

また、新たに採用された新入職員はおそろいのリクルートスーツを着て期待に胸を膨らませています。

退職される皆様には、地方公務員という肩書きはなくなりますが、一市民として砂川市を応援していただきたいと思います。

また、新たに採用された職員は、一日も早く仕事になれ市民目線でのサービスの向上に務めていただきたい。

新入職員に訓示をしながら、厳しい地方の現実を直視し実行ある地方再生に取り組んでいかなければならないと感じた。



退職された4名の皆さん



理事者と新採用職員の記念撮影